

海外からも惜し

安倍元首相

まれる稀有な政治家

を失った痛恨と無念

伊藤 澄夫

伊藤製作所社長
中京大学特別栄誉客員教授

7月8日、安倍元首相が奈良県で選挙演説中暴漢に銃撃された。1963年に米国のケネディ大統領が暗殺された時以来の衝撃を受けた。日本を任せられる唯一の政治家と尊敬していただだけにこのショックは忘れられない。

日本のために本当によくご活躍いただきありがとうございます。安らかにお休みください。

葬儀場には一般の国民が3時間も並んで献花し、女子高校生が止まらぬ涙もはばからずお見送りしている姿もテレビに映し出された。安倍さんがいかに偉大な政治家であつたかがうかがえる。

2008年12月のことだった。マニラに滞在していた私は、当時知り合いでもなかった櫻井よしこさんから突然、国際電話で50分間の取材を受けた。私の著書『モノづくりこそ日本の砦』を読まれていることで、5日後に帰国したところ、『週刊新潮』にそれをもとにしたものが掲載されていた。以来、櫻井さんとは事ある度にお会いし、将来の総理大臣は安倍さんしかない、彼がいかに素晴らしい政治家

略は安倍外交に通じるものがある」とのコメントをいただいた。私が長年中国を避けた海外事業を進めてきたことを伝えたかったのだろう。光栄に思つた。

2017年10月30日にフィリピンのドゥテルテ大統領が来日し、総理大臣公邸で晩さん会が開催された。その年の1月に安倍総理(当時)一行が東南アジア歴訪の一環でフィリピンを訪問しており、そのお礼の意味だろう。総理大臣公邸で開催された晩さん会には私も招待を受けたが、民間人は10数名だった。私とその東南アジア歴訪に参加させていただいたからだ。そして晩さん会ではマニラの輸出加工区で金型を作っている企業として、ドゥテルテ大統領と名刺交換を行うことができ、会が終わるころ安倍総理にお礼を申し上げた。

アジア歴訪の折、最後の訪問国ベトナムで行われた記者会見がテレビ放映されたのだが、安倍総理はそこで大企業がほとんどであった参加70社の中、中小企業である当社を取り上げたのだ。お聞きになった方も多いと思うが、いま一

家であるかを語り合ったものだ。そんな私でも、今回の事件への海外の反応、安倍さんへの評価の高さには驚きを感じた。欧米はじめ数えきれない国のマスコミは、それ以上の称賛はないだろうほどの高評価をし、多くの国ではその死を悼み、翌日を喪に服す日とした。安倍さんの外交努力が報われたのだ。

その一方、国内の古参政治家や多くのマスコミからは、「桜やもりかけを中途半端にして亡くなった」などの発言、発信。これには怒りすら感じる。

先日、テレビ報道では知ることのできなかつた銃撃場面の一部始終の画像をある方からいただいた。それを見て、改めて残念でならなくなつた。

私の住む三重県では式年遷宮や正月のお伊勢参り、2016年の志摩サミットなど、毎年のように国内外のVIPが訪問される。その際、三重県警はこれでもかという嚴重な警備を行い、それによる多くの制限や規制には三重県人も協力する。そうした三重県警の要

度、話された内容を紹介したい。

「20年前フィリピンに進出した三重県の金型メーカーは長年人材育成に取り組んできました。今や高度な金型も現地スタッフの皆さんだけで製作できるそうです。4年前にはインドネシアでも合弁会社を設立し、同じようにインドネシアの若者たちの技術向上に取り組んでいます。ニッポンの技術を単に持ち込むのではなく、人を育てしっかりとその地に根付かせ。これがニッポンのやり方です」

それから5年後の今年7月1日、三重県の四日市市と菟野町に安倍さんが選挙応援で来られることになった。地元選出代議士経由で「伊藤が公民館の裏口で一人でお待ちする」と伝え、時間通りに来られた安倍さんに、月刊誌に掲載された私と安倍さんに関する記事のコピー8枚と、奥様の昭恵さんへの化粧セットをお渡しした。

奥様への贈り物は受け取っていただけない可能性も心していたが、にっこりと微笑まれて袋をのぞき込まれ、「ああ、奥様を愛しておられるのだな」と思わされた。

人警備への意気込みを知っている私からみて、奈良でのSPや奈良県警の対応は無いにも等しかった。安倍さんの命を助けるための行動がなぜとれなかったか。

1981年に米国のレーガン大統領が狙撃された折の映像の記憶が今も鮮明にある。あの時、銃声の1秒前後の間に、多くのSPや護衛の警察官がレーガン氏の壁となつて取り囲んでいた。

今回の事件の時間を巻き戻すことはできないが、今後への大きな反省点としてほしい。

偲ばれる思い出の数々

私には安倍元首相との素晴らしい思い出がたくさんある。

2014年、日豪防衛相会談が開催された。ニュース番組『新報道2001』では、日豪の関係が準同盟国に深化すれば、両国の同盟国である米国の関係が、日米、豪米という線から日米豪の3面になり、アジア太平洋地域の抑止力になると解説。その時、安倍さんと私の写真が映されて、コメントーターから「伊藤社長の海外戦

本当に気持ちよくお別れをさせていただき、翌日からは選挙応援の姿をテレビでウオッチングしていた。それからちょうど1週間後の8日、奈良で今回の不幸に遭われたのだ。

地政学的に日本は厳しい地域にある。彼には今後もこの国をリードしてほしい。



いとう・すみお

1965年立命館大学経営学部を卒業後、伊藤製作所に入社。1986年同社代表取締役就任、現在に至る。順送り金型メーカーの老舗企業であり、国際競争力のある金型製造技術の確立に努め、無人化、高速化、精密化を追求したプレス加工で卓越した技術力を誇る。
(社)日本金型工業会・副会長・国際委員長を歴任。中京大学特別栄誉客員教授、国立ソウル科学技術大学校名譽教授、神戸大学非常勤講師などを務めて後進の育成に寄与。2017年4月「旭日単光章」、21年1月「紺綬褒章」受章。著書に『モノづくりこそニッポンの砦』『ニッポンのスゴい親父力経営』『日本製造業の後退は天下の一大事』がある。